

平成27年度 第1回倉敷市生物多様性地域戦略推進委員会

指摘事項

(1) 地域戦略実施事業の進捗について

- ・ 実施事業計画表に予算を載せているのは、分かりやすく良いと思うが、予算0円の事業が多い。
- ・ 自然史博物館の事業の一つである「倉敷まちかど博物館」は、外部から予算を確保して行っているが、現在の実施事業計画表の書き方では、予算0円で行ったように見える。外部予算についても、実施事業計画表の実績に計上してはどうか。
- ・ 外部予算で行っている事業においては、市の予算でなくとも、備考の欄に参考として記載してはどうか。
- ・ リーディングプロジェクトにもなっている特定外来生物の駆除については、情報提供も大切だが、問題がない場所については、興味のある市民の方に来てもらい、実際の駆除方法を知ってもらい体験してもらうのが良いと考える。
- ・ 耕作放棄地について、全体としては耕作放棄地は増えているが、数値目標の中で耕作放棄地が倉敷市は減っている。その理由を知りたい。
- ・ 生物多様性は数十年にわたる長期スパンの話なので、多くの子ども達に生き物等について興味や関心を持ってもらうことが肝心である。そのためにも子ども達が参加するようなイベントを進めたり、地元の自然豊かな場所をPRしたりすることが大切であると考えます。
- ・ 教育の視点から考えると、生物多様性の考え方は、教育そのものに役立つものであると考えるが、現在、生物多様性に関係するイベントに参加しているのは意識の高い親の子だけである。だからと言って保育園や幼稚園に持って行くことが難しいのは、先生たちが生物多様性を難しく考えてしまい、二の足を踏んでしまっているのが現状だと推察する。しかし、感性が豊かになっていく幼児期に自然に触れ合い命のつながりや生物多様性を感じることは将来にわたる人格形成にとって大切だということを保育・教育の現場の先生に知ってもらいたいと考えている。幼児から児童期へと生物多様性を踏まえた教育活動を可能にするには、リーディングプロジェクトの中の人づくりに焦点をあて、学習指導要領等とリンクした教育の面からの生

物多様性というものを現場の先生や教育委員会に示せば、生物多様性に関する様々なイベントに取り組んでくれる人の広がりを期待できると考える。

(2) 昨年度指摘事項について

- 生物多様性の豊かさは、抽象的で分かりにくい。生物多様性の劣化や豊かさの基準を市として定めた方が良い。議事 2-2 具体的な定義（数値化）について既存データを収集したことは評価できるが、このデータを環境部局として 3 年ごとくらいに把握することができれば良いと思う。
- 倉敷市自然環境保全条例を改正するならば、地域戦略の短期目標や長期目標、生物多様性の豊かさの基準を、程度については検討が必要だが、条例の文言に入れ、また、具体的な施策を想定してつくることでより先進的な条例をつくるのが良いと考える。他自治体の状況を資料として作成いただいたが、この中の愛知県の条例はミティゲーション（自然回復）を書いている上で先進的。
- 大規模な工場地域がある倉敷市では海岸線の土地利用について長期的な視点が必要。ミティゲーションの考え方も検討が必要では。
- 生物目録について、すべての生物についていっぺんに調査を行うのは難しいが、指標となる生物を定め限定すれば、専門家でなくとも観察会等を通して一般の人たちでも調査はできると考える。
- 生物目録について、県のデータベースは、県内の各施設からの持ち寄りのため、各施設の許可がないと県が勝手に各自治体に渡すことはできない。生物目録の作成を考えるなら、まず、県に情報提供を行った情報提供者の連絡先の情報開示を依頼した方が良いと考える。
- 現在ある倉敷市自然環境保全条例における環境保全地区は、開発をやめさせるための指定であったと考えるが、改正をするのであれば、「ここだけは今の姿で残すべき」という視点で保全地区を指定するのが良いと考える。

(3) その他

- 現在、自然史博物館においては特別企画展で恐竜等の標本の展示を行っているが、

常設展示場所の確保ができないことから、夏休みが終わったら標本は倉庫にしまう予定である。倉庫にしまってしまうのは、大変もったいないので博物館の隣に建物を建てたら良いと考える。

- 今回の恐竜等の標本の展示は子ども達に大変人気がある。この推進委員会からも自然史博物館に新しい建物を建てることを申し入れできれば、これをきっかけに自然環境のいろいろなことが市民の方に伝わるのではないかと考える。
- 高洲干潟等、倉敷市にある全国的国際的に生物多様性の観点から価値あるものの仕分けを行い、そのものへの注目の仕方を整理するようなものがあつた方が良いと考える。
- 海岸の延長線について民間が調査したデータがみずしま財団にある。国のデータとの整合性が必要だが、倉敷市に情報提供することができる。
- 耕作放棄地の話がでたが、山の山林を貸してほしい、木を切って利用したい人が何人もいようで、山を持っていて他人が利用することを許可してくれる人を紹介してくれるシステムがあれば、山の人的自然の利用が進んで、生物多様性上も良いのではないかと考える。
- 緑の基本計画も生物多様性の保全が確保されたものであることを期待する。
- 倉敷市を含む岡山県は、普通種が普通種であり続けているという意味で大変素晴らしい地域だと考える。メダカが市街地の水路で泳いでいる場所など、今や日本中探しても簡単に見つかるものではない。特に倉敷市は、瀬戸内海の自然が素晴らしい。高洲干潟の生物多様性は、日本の干潟の現況を勘案すると、特別天然記念物に指定したいくらいである。こうした点を長期目標に反映できたら良いと考える。